

ぱくびーと
幕間の裏物語

蒼湯

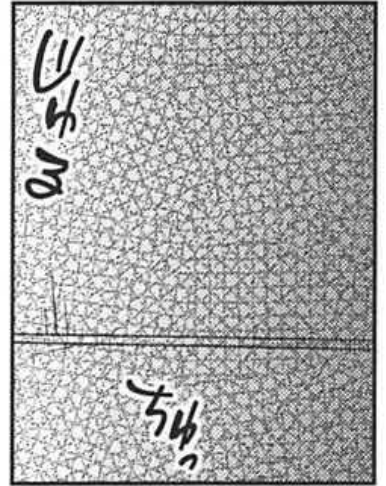
18歳未満
閲覧禁止
R-18
成人指定

FGO Fanbook

R-18

for adult only

Presented by SlapStickStrike
Stealth Changing Line



ああ……
この間までまったくの
初心者だったのに

すごい上達ぶり……と「を
舐められたら気持ちいいのが
完全に掌握されてる……っ

聖女にこんなことを
させてしまっている……
いけないことなのに

もぎゅん

せりゅ

きゅん

もぎゅん



くらはい
ますたー
魔力補給、
させてくらはい

いきそう
れすか？

いん

きゅん

もぎゅん
もぎゅん
もぎゅん
もぎゅん
もぎゅん

もぎゅん
もぎゅん
もぎゅん
もぎゅん
もぎゅん



すごい
一滴も残すまいと
吸いついてくる……っ



今日もいっぱい
射精^でしましたね マスター





きみ妙に奥手な
ところあるよね

慣れるとちよっと
楽しいですね

この魔力供給はその……
はじめは恥ずかし
かったですけど



はい？

まー裁定者^{ルイラー}はね
魔力消費激しいらしいし
両者が合意の上なら
例の魔力供給方法は確かに
有利だね



ダヴィンチ
ちゃんから

ワンポイント
アドバイス

あの娘特別芯が
強いからついつい
見落としがちだけど

ちゃーんと女の子なんだから
それを忘れちゃダメだよ



はい！



ジャンヌ

はい？

その……
魔力供給って形じゃなくて
今度はちゃんと、したい



よし
近事だ!

わしわ
わしわ



ジャンヌのことが
好きなんだ

一人の女性
として



私を恋人にしたい

ということですか？

うん

そそそれは……
その……



んまっ

私は……
私はダメです

どうして？

私はサーヴァントです
生者と結ばれる
権利を有しません

聖女と呼ばれたことも
ありませんが
私はそう思いません

真実は
唯の咎人です

善のためにもう一方の
善を刈り取った咎

人ではなく人々を愛する
と決めたのです

私は生前家を飛び
出したあの日から

もつといえは

いえ

だから……
人ひとりを
好きになつては
いけないんです

それでも

自分は好きだよ
聖女だからじゃない

人々を愛している
ジャンヌっていう
女の子が好きなんだ

自分でも矛盾したことを
言つてると思うけど
そこを直前にまげてお願いするよ





ああ 膣内
暖かい……

ヒダが絡み
ついてくる
まるで歓迎され
てるみたい……っ





なんっ!?
いっちやったのに
まだまだ気持ち
よくなるっ!

なんっ!?
なにこれっ!?



優しくするの
だめですっ
優しくされるのが
これなにキモチ
イイと思っ
てたんであっ

こしとめて
ください
ますたあっ

好きなんとするのが
これなに違うなんて
知らなかったんであっ!



うわっ

うわっ

うわっ

そんなこと
いわれても
よすぎて腰
止められないっ

うわっ

うわっ

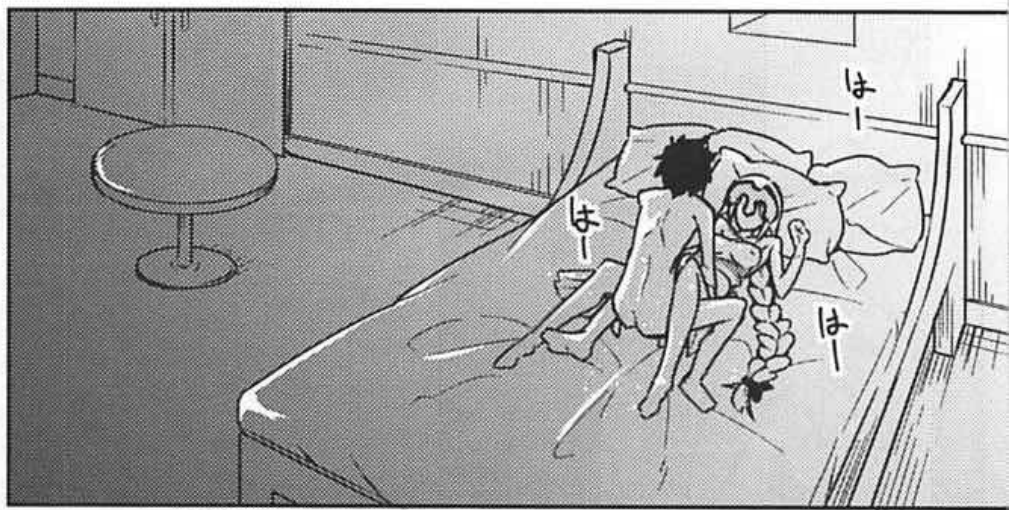
うわっ

うわっ
うわっ
うわっ

クワッ
クワッ

ドクッ
ドクッ
ドクッ
ドクッ

クワッ
クワッ





抽送するたび
感覚が変わる

ペニスを歓迎して
くれる場所が変わる



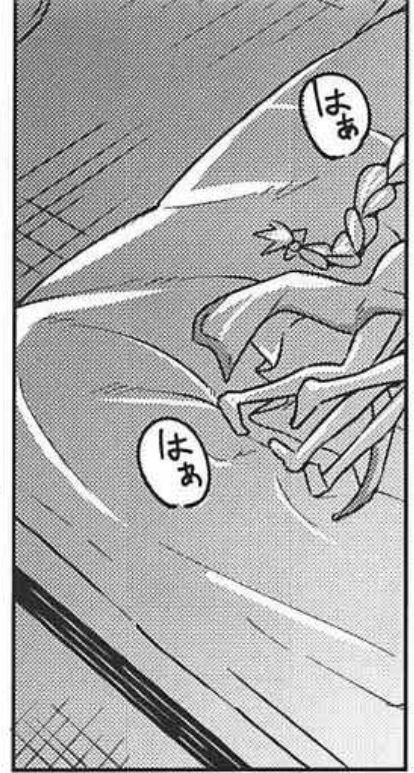


ジャンヌとの
セックス
気持ちいい……っ





さすがに
疲れた……



え？



私のターンですね



じゃあ
今度は……



さすがにちょっと
慣れてきました

いつまでも
やられっぱなしの
お姉さんじゃ——

ありませんよ？

マスターがおっぱい好きなのは知っています

おっぱい

ほら離さないでくださいね？

おっぱい

わ私だっ
ずつと我慢して
たんですよ？

んっ
普段からあんな
魔力供給したら

多少なり感
させられるに
染まってるじ
やないですか？

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい



うあ吸いついてくる
一度入った獲物を
逃さないようにしてる
みたい……っ

相手のペースで
擦られるのすこい……っ
魔力供給なんかとは
違う本気のセックスっ

持っていていられるっ
丸ごと持って
いられるうっ



自分も知らなかった
快楽を交換しあう
のがこんなに
気持ちいいなんて

いきそう
であか？



好きな人と
prog

イイですよ
いっこください

きゅっ

しんが

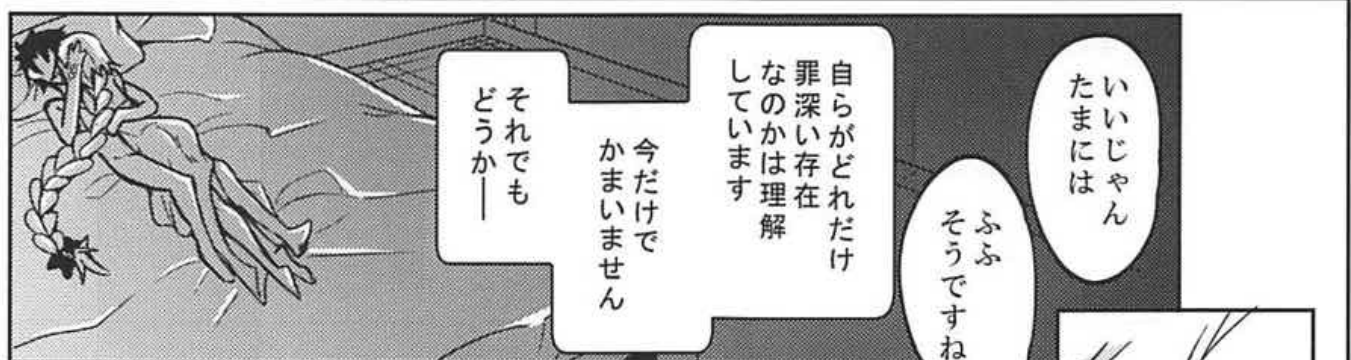




本当は私のほう
がお姉さん
なのに……

すみません
ああまよ
どうかー

ぎゅっ
わわっ



いいじゃん
たまには

ふふ
そうですね

自らがどれだけ
罪深い存在
なのかは理解
しています

今だけで
かまいません

それでも
どうかー

えっとその
なんというか……

好きな人の
腕の中は

人ひとり
好きになることを
御赦しください

とてもよい
ものですね

おまけ

本編、20分から30分後くらい
シャワーを浴び、衣服を整えると、ジャンヌは布団に
くるまってしまった。
その中で真っ赤な顔を押しさえているようだ。

「どうしたの、大丈夫？」

ジ「い、いや、今更ながら先ほどまでの振る舞いが
恥ずかしくなってきたといいますか、
なんてはしたくないマネをしてしまったのかと思ひまして
……うう、今ちょっと思い出すだけでもう……」

「それって、最後の騎乗——」

ジ「わああああ！マママママスター？！破廉恥です！
いけませんよ！」

亀のように頭だけだして猛抗議してきた。

「愛し合う者同士、結婚前提ならいいんじゃないの？」

ジ「けっ——」

わかっていたはずなのに、
それでも言葉を失うジャンヌ。
結婚という言葉に、英霊である自分には本来全く縁が
ないはずの言葉に、震える。

ジ「っ。それは！そうですが！
でもけど節度は必要なのです！」
(あんな魔力供給してた時点で今更なような……)
ジ「……マスターには無理をさせてしまい、すみません」
「ぜんぜん。むしろ幸せだった……」
ジャンヌは、後悔してない？」
ジ「していません」

きっぱりと布団の中で断言するジャンヌ

ジ「……あくまで、恥ずかしいというか、
罪悪感があるというか……
しかし、そんなこと聞かなくて
デリカシーが足りませんか？」

「う、ごめん」

ジ「私はあなたと共に歩むと決めましたから。
そのせいでこれから何が起ころうと、私は絶対に後悔しません。
とはいえ、乙女心を暴き立てるような質問は感心しません。
そんなこと聞いたら、女の子に嫌われちゃいますよ、マスター」
「うん、もう聞かない。ジャンヌに嫌われたら立ち直れない」
ジ「っ！な、なら大丈夫です。
私は、そんなことでマスターを嫌いになることは
ありませんから……んしょ」

布団から出てくるジャンヌ

ジ「布団の中じゃ、かっこつかないの？」
「立ち直った？」
ジ「正直、まだ顔から火が出そうです。
しかし、やってしまったものは仕方がないですからね。
間違いがあれば正し、反省し、改めればよいのです」
ジ「いつまでもへこたれてはいられません。
なにせ、あなたを導き、共に歩むのが、私の役目ですから！」

火照った顔のまま、ジャンヌは笑顔でマスターに向ける。
これまで抱えていた胸のつかえが取れたからだろうか、
その燦々とした笑顔は心なしか
いつもよりいっそう晴れやかなものに見えた。

あとがきと補足

お久しぶりです。ステルス改行です。
オマケが読みずらかったらすみません、もうページ数ががが。
最近ぐだジャン(白)が好きすぎて辛いです。
メモ帳はおまけみたいなくだジャンネタでいっぱい
……描く時間ない……

特異点Fで奇跡的に召喚され、一章にとどまらず
最終章までぐだ男と共に戦い続けたジャンヌ。
旗持ち導くジャンヌと、ときには励まし、時には勇気づけられ、
時には喧嘩もしながら、苦難を乗り越えた結果、
いつのまにやら両想いに、みたいな感じです。
タイミング的には6章終了後位を想定しています。
ちなみに前回の師匠本とはパラレルワールドです。

なおapoについてですが、限りなく近い、しかしジーク君と
恋に落ちていない結末を迎えているルートがトゥルーと
なっている場合のIFです。
一章でジャンヌが「慈愛は知っていても、恋はわかりません」
一恋について聞かれ、「ええ、機会があれば」と返しています。
限りなくApoに近い経験を経たが、恋に係る基本的認識は
この状態のままカルデアまでやってきた、
というIFの存在になります(剪定事象案件)。
通常、すべての聖杯戦争の記録を有するルーラーですが
(まだこの設定生きてるのかわかりませんが……)、
そこはカルデアの未熟な召喚システムゆえの甘さ、
今回裁定するのが人理焼却という未曾有の大災害であった、
召喚された場所がカルデアではなく特異点Fだった
(召喚したのはぐだ男)等といったトラブルから類似する
聖杯戦争の記憶等々は他のクラス同様オミットされているかんじです
(つまり、各聖杯戦争の代表、トゥルーの記録程度しか持っていない)。
まあ正直無理のある設定ですが結論ありきだからね、
しょうがないね。考えるな、感じるんだ……ということ。

基本的にジャンヌは自分が恋していることをやすやすと認めません。
なぜならそれは過去に捨てたはずのものだから
(ふとした拍子に無意識レベルの恋をすることはあっても、
それを鋼の精神でねじ伏せるタイプ)。

なので、それを認め、是として本人の中で消化するのは
城塞と称されるウルトラ頑固者なジャンヌの場合かなり
難易度が高いです。今回レディシニアバッチもないし。
このため、本誌の前日譚において、ジャンヌがうすうすながらも
内心を理解することがあったりなかったりすることで、
今回の話につながってきます。
(つまり好感度は本誌スタート時すでにカンスト)
まあ好きじゃなきゃあんな魔力供給しないよね。
しかし、まあ、これでもジャンヌが恋を認めるのは
かなり難しいかなと思っているの、いつもどおり
いちゃコラするためのフレーバーとなります。

神明裁決用の令呪については、マテリアルでは見当たらない点と、
アンケートをとったところ、ないんじゃないかという意見がやや
多かった点から今回は描いていません。
レイシフトするたび敵サーヴァント変わってるからね
どうなってるんだろうね。
そのうち3臨のフィギュアが出ればはつきりするかなと思って
います(修正案件)。

ちなみに3臨衣装で髪を編んでますが、これは完全に私の趣味です。
この差分再臨もほしい！あと水着や神風やJKもおねがいします！

次回ですが、事前に告知していたジャンヌ・ダルク本二冊目は
諸事情により中止することにしました。
楽しみにしていた方申し訳ありません。それでは、またどこかで。
2017.4.10ステルス改行

奥付

タイトル 幕間の裏物語 蕪
発行 SlapStickStrike
発行者 ステルス改行
印刷 丸正インキ様
発効日 2017/4/30
e-mail torech40@yahoo.co.jp
サークルサイト名 SlapStickStreak
URL http://blog.livedoor.jp/stealth_cl-slapstickstreak/
pixivID 422682
無断転載、無断アップロードを禁止します。

WARNING:

The producer of this WORK(Book and Do-Jinshi) has not permitted following,
・Reproduction of this WORK.

・This WORK is done in the scanning and uproad to the Wired network

(The Wired network includes SNS・P2P and etc.).

The producer of this WORK prohibits sharing the WORK by the Wired network



SlapStickStrike
SCL
2017 spring